

子供たちの小さな変化への気付きからはじまる未然防止

友達関係、仕草や表情、服装や持ち物等、日常生活の中で子供たちの姿の小さな変化に気付くことが、いじめや問題行動、不登校等の未然防止の第一歩です。

視点(例)

表情や行動に注目!

【朝の登校時】

- 名前を呼ばれても返事をしない。
- 教師と目を合わせなかったり、うつむいたりしている。
- 普段より口数が少なく元気がない。
- 普段よりよくしゃべる。落ち着かない。



【授業中】

- よく外を見て、ぼんやりしている。
- トイレや保健室に行く回数が増える。
- ノートの字が乱雑になった。
- 寝ていることがよくある。
- ネガティブな発言が増える。
- 学習の準備がそろわない。



【給食・休憩中】

- 給食を残したり、食欲がなくなったりしている。
- 何回もおかわりをする。
- 友達と遊ばず、一人で過ごすことが多くなった。
- 遊び仲間の構成が頻繁に変わる。
- 内緒話をする場面をよく見かける。



【放課後】

- なかなか帰ろうとしない。
- 友達と帰らず一人で帰るようになった。
- 挨拶をしても返ってこない。
- 習い事や部活動に行かないことが増える。



「あれ?」と思った時には...



ポイント①

「いつもの様子と違うな」と感じたら、**朝の早い段階で声かけ**をしましょう。子供たちの気持ちや伝えたいことに寄り添いながら、話を聞くことが大切です。

ポイント②

日記や作文を通して、子供たちの様々な情報を得ることができます。合わせて、**他の先生方からも情報を集めること**で、より客観的に実態を把握することができます。

ポイント③

生活の乱れを感じたら、**家庭の様子に意識を傾けてみましょう**。その際、学年主任、学年団、養護教諭、SC、SSW等、複数で情報を共有し、アセスメントして、有効な指導や支援につなげましょう。

「あれ?」と感じる姿を見つけたら、まずは、**身近な先生方へ相談**をしましょう。



特に連休明けの変化に注目!

【子供たちや学級の姿】

- 玄関で毎朝ぐずる。
- 気持ちの浮き沈みが激しくなった。
- 表情が無い。無口になった。
- 学級集団が規律のない状態になった。
- 宿題や課題などの提出率が下がった。など

特に連休明けは、年度初めに緊張感をもって登校していた子供たちが息切れをする時期でもあります。安心して過ごすことのできる環境が整っているのかという視点で学級の様子を振り返ることも重要です。

